

2018年～2021年 入学生募集用パンフレット

<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/pamphlets/>

※ 就職・進路関係情報（職業は当時のものです）

2021年 入学生募集用パンフレットより抜粋

※ 就職・進路関係情報（職業は当時のものです）

さまざまなフィールドで活躍する修了生

ひたすらに調べ考えた2年間

地方公務員

石垣 友香子

(平成29年度修了)

仙台市役所 青葉区保健福祉センター 保育給付課
仙台市出身、早稲田大学政治経済学部卒業



本年4月、仙台市では子育て家庭が抱える問題に様々な方面から対応・支援する「子育て家庭応援センター」が始動しました。入庁から3年目を迎える私も、本センターの設立に伴い改編された保育給付課で保育施設等の利用にかかる業務に日々邁進しています。

私は1年次の公共政策ワークショップで仙台市の教育、2年次で同市の子供の貧困問題についての研究・政策提言を行いました。実際に現場で仕事をすると、そのときには気付かなかった課題がたくさん見えてきます。そういった課題に直面したとき、私は相談に来られた方へ詳細に聞き取りを行い、場合によっては他の部署と連携して対応

を行うよう心がけています。これらの方法はすべて2年間のワークショップのなかで実施したヒアリングや政策の立案を通して身につけたものです。

本学で身につけた様々な方面から情報を集める力や、一見無関係に見える数々の事象をリンクさせながら考える力は、複数の部署が一体となって子育て家庭を支援する現在の仕事に不可欠なものです。ひたすらに「調べては考える」を繰り返す2年間は、皆さまにとってもかけがえのない経験と力になると信じています。

可能性を広げる「学びと発見」の運動場

国家公務員

門脇 豊和

(令和元年度修了)

林野庁林政部林政課
山形県出身、福島大学行政政策学類卒業



まさか自分が国家公務員になる…!?とは、入学当初は想像もしていませんでした。地方に強いこだわりを持つ私が、中央官庁から地方にアプローチしてみようと思ったのは、大学院で受けた多くの刺激がきっかけです。まだ見ぬ自分の可能性を広げる多くの学び・発見をダイナミックに得られる、それが東北大学公共政策大学院の大きな魅力です。

東北公共の面白さは、知の運動場、つまり頭だけではなく身体を使って社会問題を考えられる環境にあると思います。学生と先生方の距離が非常に近いこと、双方が情熱的に問題解決に取り組む雰囲気は、自然と自分の中にある問題意識や可能性にも火を付けてくれるはずです。

私は就職活動のため1年長く在籍しましたが、粘り強く戦えた

のは、私自身の可能性を常に教えてくれた先生方と、共に支え合った学友たちがいたからです。まさに東北公共での学びと発見が、大きなチャレンジへ導いてくれたように思います。

東北公共の門戸は非常に広く懐も深いです。ぜひ、学都・仙台で刺激に満ち溢れた日々を送ってみませんか？

就職・進路関係

東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

政策プロフェッショナルを目指す人

現在

国家・地方・国際公務員を志望している。

既に公務員試験に合格している人も

東北大学公共政策大学院(原則2年で修了)

- ワークショップで実務体験型学習
- 公共政策の最先端理論の体系的学習
- 政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得
- 実務家教員による公務員志望者に対する指導

在学中に公務員試験合格

将来

- ◆ 国家・地方・国際公務員

進路の幅を広げたい人

現在

学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。

東北大学公共政策大学院(原則2年で修了)

- ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める
- 自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習
- 政策プロフェッショナルや企業マネージメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得
- 指導教員によるきめ細かな進路指導

在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格

将来

- ◆ 国家・地方・国際公務員
- ◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ
- ◆ ジャーナリスト ◆ 民間企業のマネージメント
- ◆ 博士課程に進学

社会人として一段階上を目指す人

現在

中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。

東北大学公共政策大学院 (1年もしくは2年で修了、長期履修(上限4年)で修了)

- ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す
- 公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習
- 政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得
- 指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成

将来

- ◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ
- ◆ 別の職へ飛躍

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

修了生の主な進路先

NPO等 5名

学校教育関係 1名

卸売業・小売業 4名

エネルギー関係 4名

大学院(博士課程等)進学 4名

国家公務員総合職(旧国家公務員I種) 33名

国家公務員一般職(旧国家公務員II種) 9名

国家公務員専門職 2名

特別職国家公務員 5名

地方公務員上級職 93名

地方議会議員 1名

政府関係法人等 16名

シンクタンク・コンサル 15名

報道関係 12名

金融関係 47名

製造業・メーカー系企業 22名

サービス系企業 37名

● 国家公務員総合職(旧国家公務員I種)・・・	人事院、内閣府、公正取引委員会、総務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院、経済産業省
● 国家公務員一般職(旧国家公務員II種)・・・	金融庁、公安調査庁、財務省、国土交通省、入国管理局、関東管区行政評価局等
● 国家公務員専門職・・・	外務省、関東財務局
● 特別職国家公務員・・・	参議院事務局、陸上自衛隊幹部候補生、航空自衛隊幹部候補生
● 地方公務員上級職・・・	東京都庁、北海道庁、岩手県庁、宮城県庁、秋田県庁、山形県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、神奈川県庁、愛知県庁、兵庫県庁、沖縄県庁、札幌市役所、仙台市役所、横浜市役所、名古屋市役所、大阪市役所、北九州市役所等
● 地方議会議員・・・	仙台市議会
● 政府関係法人等・・・	日本銀行、JETRO、国際協力機構、農林中央金庫等
● シンクタンク・コンサル・・・	日本総研、野村総研、富士通総研等
● 報道関係・・・	読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、河北新報社、日本放送協会等
● 金融関係・・・	日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、日本生命、明治安田生命、全国共済農業協同組合連合会、野村證券等
● 製造業・メーカー系企業・・・	三菱重工業、JFEスチール、三菱ケミカル、三井化学、東芝、日立製作所、三井金属鉱業、日本新薬、日本製鉄、三菱マテリアル等
● サービス系企業関係・・・	日本IBM、JR西日本、NTTデータ、ベネッセコーポレーション、ヤマト運輸、JTB等
● エネルギー関係・・・	東北電力、北陸電力、静岡ガス等
● 卸売業・小売業・・・	豊通食料等
● 学校教育関係・・・	学校法人昌平塾
● NPO等・・・	仙台ひと・まち交流財団等
● 大学院(博士課程等)進学・・・	東北大学大学院(法学研究科、医学系研究科、情報科学研究科)

※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

2020年 入学生募集用パンフレットより抜粋

※ 就職・進路関係情報（職業は当時のものです）

さまざまなフィールドで活躍する修了生

真の実学を学べる日本唯一の学び舎

国家公務員

小野 遥太

(平成30年度修了)

外務省大臣官房

東京都出身、東北大学経済学部卒業



皆さんにとって実学とは何でしょうか。より地に足のついた学びにこだわりたい、そんな思いで門を叩いた私の大学院生活は、入学早々、外務省と元大使へのヒアリング調査から始まりました。

その後もワークショップの仲間たちと共に外郭団体や企業、外国政府まで30か所近くを訪ね、自らの足で学び取ってゆくことで、ようやく文字にならない声から現場の姿を知ることができました。

こうした現場にこだわる本大学院での学びは、先生方との距離が近いからこそ実現しています。実務と研究を熟知した先生方と、社会課題の解決に向けて密に議論を重

ねていき、よりよい社会をつくる「真の実学」を学んでいました。

入省後は、ワークショップで扱った部署に早速配属され、公共で培ったありとあらゆる「現場力」が生かされています。「中東専門の外交官として、東北生活で共に歩んできた復興の道を紛争地で実現する」、公共で抱いた私の夢は、まだ始まったばかりです。

皆さんも美しき杜の都で、これからの我が国を考えてみませんか。

答えのない課題にとことん向き合う

民間企業

平林 穂奈美

(平成28年度修了)

野村證券株式会社法務部法務一課

京都府出身、関西学院大学国際学部卒業



大学卒業後、大学の同期のほとんどが社会人になる中、大学院に進学することはとても勇気のいる決断でした。しかし、東北大学の公共政策大学院では、2年先に社会人経験を積んでいる同期に劣らない経験を得ることができ、とても意義のある2年間であったと確信しています。

特に、1年次の「公共政策ワークショップ」では、研究者教員と実務家教員の指導の下、様々な分野の学問を学んできた仲間と共に、1年間、1つの政策課題に向き合います。

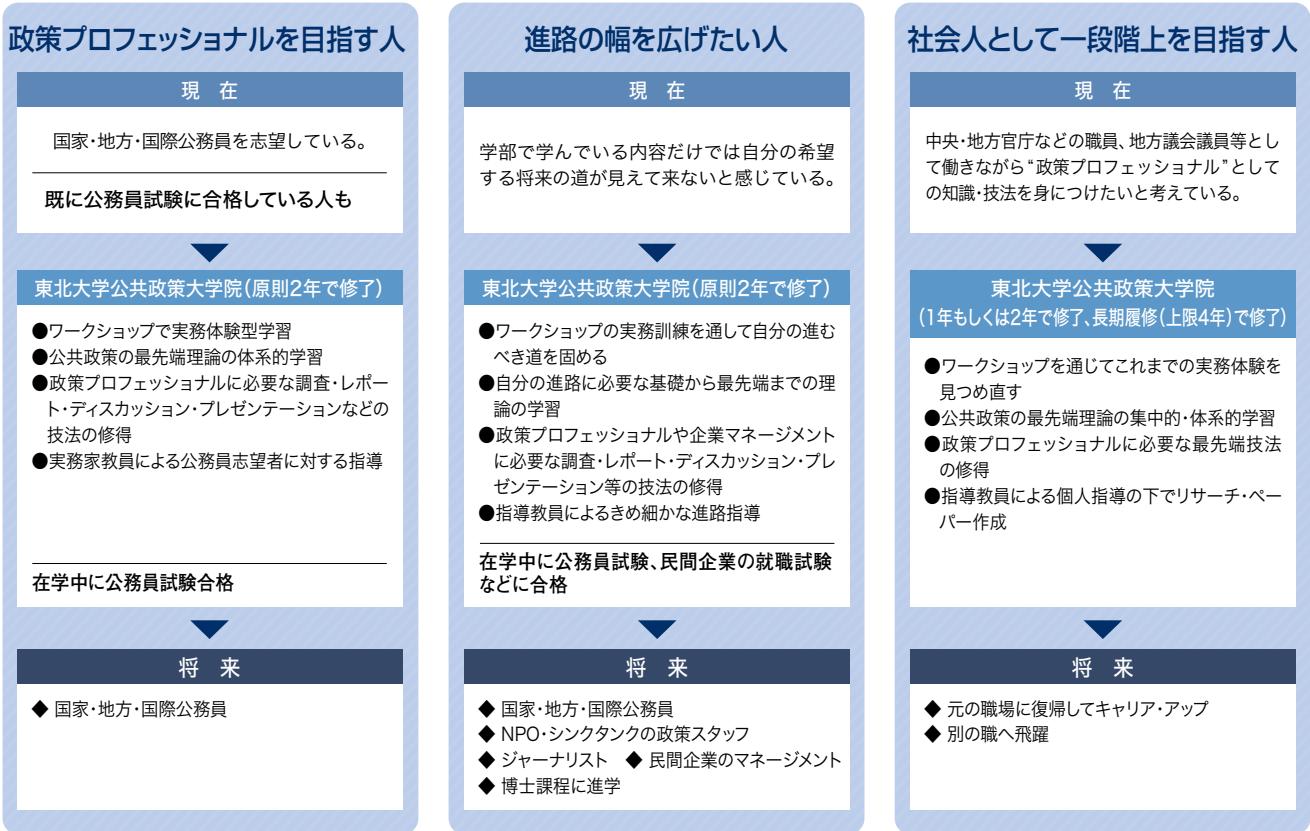
1つの政策課題について、文献調査、議論を何度も行い、

仮説を立て、国内に限らず、海外にも足を運び、現場の政策担当者と意見交換を行う。そして、理論と実践の間に立つ私たちだからこそ提示できる解決策を考え抜きました。

社会人になり、答えのない課題に向き合う毎日ですが、本学で得た「考え抜く力」は、現在の仕事に生きてしていると実感しています。

就職・進路関係

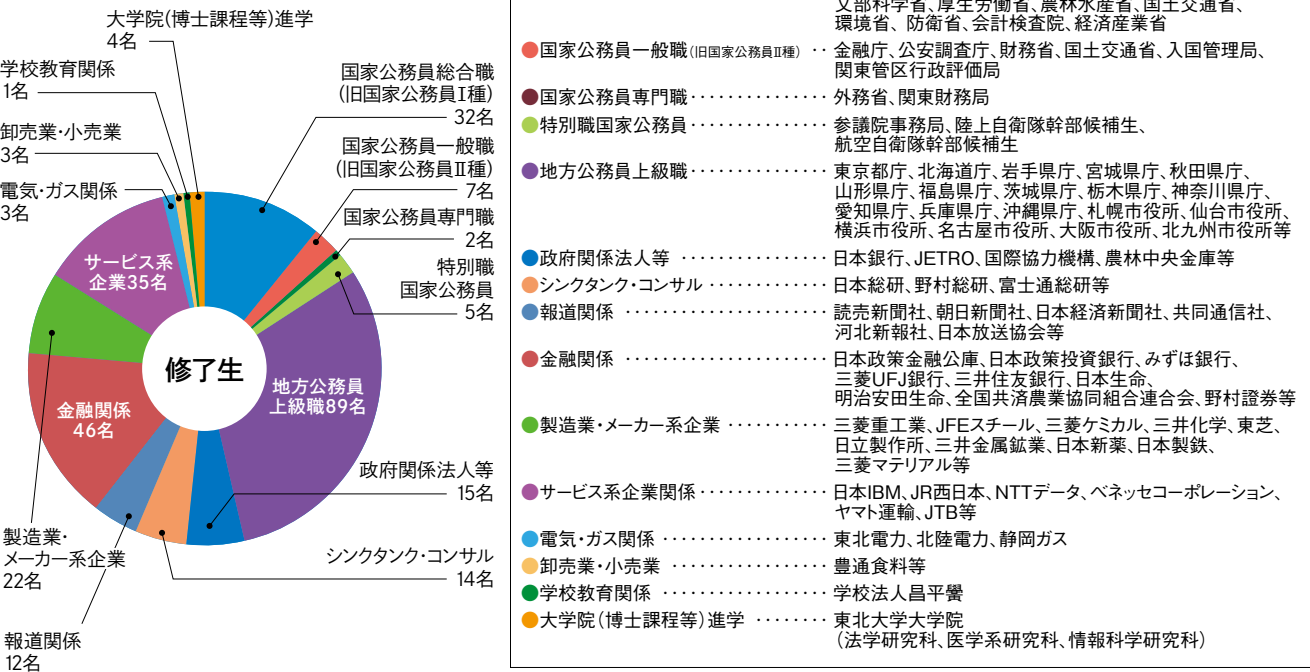
東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。



修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

修了生の主な進路先



※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

2019年 入学生募集用パンフレットより抜粋

※ 就職・進路関係情報（職業は当時のものです）

さまざまなフィールドで活躍する修了生

職業人としての礎を築く

国家公務員

石川 祐帆

(平成25年度修了)

総務省自治財政局地方債課
北海道出身、東北大学法学部卒業

7年前、津波によって失われた町を初めて見た時、大変なショックを受けると共に、誰がどのような役割を果たすことで町を再建していくのか学びたいと強く思い、本学への進学を決めました。在学中は、震災復興に係る法制度を研究するワークショップを選択し、実務家教員の指導の下、「現場の声によく耳を傾けて課題を発見し、その解決策を冷静に考える」手法を学びました。このワークショップでの経験を通じて法制度を考えることに醍醐味を感じ、国家公務員を志しました。

入省後、熊本県庁に出向した際に、熊本地震が発生。今度は行政内部から復旧・復興に関わることとなりました。



被災者の生活支援をどう行うか、被災道路をどう復旧するか等、無数に問題が発生していましたが、どの問題についても本学で学んだ手法が重要であると再認識することとなりました。

座学だけではなく自らの足を使って学び取るワークショップは、職業人にとっても大切なことが学べる、本学の大きな魅力です。

東北発！ “公共生”の力が社会を変える

民間企業

村井 昭秀

(平成26年度修了)

株式会社NHKエンタープライズ制作本部
制作企画ディレクター／プロデューサー
奈良県出身、東北大学法学部卒業

皆さんと同じように進路に悩む学部3年の2011年3月、私は仙台市内で東日本大震災を体験しました。就職は捨て難き道でしたが、震災復興を学び自分自身を見つめ直す機会として本学の門を叩くことを決めました。

在学中に注力したことは何と言っても「ワークショップ」の一言に尽きます。実務家教員の指導の下、専門書や論文を輪読しつつ、フィールドワークやヒアリング調査を行い、現実の社会で何が求められているのか、理論と実務を融合させるのは生半可なことではありません。



(後列中央が筆者)

しかし、本学で学んだその実践力は、正に今の仕事である「取材」で活かされています。私は「報道」「ドラマ」「科学」と様々な番組を担当しましたが、すべては取材から始まります。限られた時間で専門的知識を身につけつつ、当事者に話を聞く。在学時から現場目線で思考するフレームワークを鍛えることは社会に出る上でもきつと大きなアドバンテージになると思います。

2018年 入学生募集用パンフレットより抜粋

※ 就職・進路関係情報（職業は当時のものです）

さまざまなフィールドで活躍する修了生

～人に寄り添う～

国家公務員

板垣 友圭梨

(平成25年度修了)

国土交通省自動車局旅客課
兵庫県出身、津田塾大学学芸学部卒

今の部署はバスやタクシーなどの事業を所管しており、利用者の保護などの観点から各種の規制を行っています。直近では、昨年1月に発生した軽井沢スキーバス事故の対策として、貸切バス事業許可の更新制の導入等を内容とする法改正に携わりました。今回の制度改正をするにあたって私が気をつけていたことは、「人に寄り添う」ということでした。今回の事故で亡くなった大学生の遺族の方々や、安心して利用したいと思っている利用者の方々の気持ちに向き合い、二度とこのような悲惨な事



故を起こさないよう、現実的かつ効果的な制度にしなければならないと考えていました。

こういった考え方の原点はワークショップです。当時ワークショップで繰り返し被災地に足を運んだ経験が「人に寄り添う」ことの大切さを、実感として、私の中に根付かせているのだと思います。ともすれば制度にばかり目がいてしまいますが、人の生活に影響を及ぼす仕事だからこそ、大学院で学んだ視点を心に留めて仕事をしていければと思います。

この「橋」を 渡ることではしか見えない景色

国家公務員

石田 大貴

(平成27年度修了)

環境省総合環境政策局環境保健部
環境保健企画管理課
千葉県出身、明治大学文学部卒

これは私の持論ですが、本大学院は学生と社会人、理論と実践、そして多様なバックグラウンドを持つ人たちとの間に架かる橋のようなものだと思います。周りの大半の方は橋を渡らず社会に身を投じるため、最初は一步踏み出すことに勇気が必要でしょう。

恐れず一步橋に踏み出してみると、やがてその橋の上に立たなければ見えない景色に気がつきます。例えば、ある政策を考える際、多様なアクターが複雑に絡むことでその合意形成は困難といえます。本学の公共政策ワークショップでは、これを体感しつつ、解決に資するために実



務家や研究者を交えたチームで日夜議論を行います。そして中央省庁、地方自治体、民間企業、時には海外の機関などにもヒアリングを行い、政策の最前線の声を聞きつつ、自分たちの政策提言の方向性や妥当性を探っていきます。

まだ社会人1年目ではありますが、この橋を渡ったことは今後の社会人生活の中で必ず生きてくると考えます。皆さんも東北大学公共政策大学院という橋に歩みを進めてみませんか。